



vol.43 2017

理事長あいさつ

グループホーム こんぴら

行事報告

サンライズ こんぴら

行事報告

取り組み：「外出支援」

利口げな話

特集：「へえ〜っ、そうなんだ!?  
〜昔の人はすごい!!〜」 第37回

編集後記

関連機関



KEIRYOKAI  
produced by  
医療法人 圭良会

特集  
へえ〜っ、そうなんだ!?  
〜昔の人はすごい!!〜

第37回



❗ 氷のうや氷枕を長もちさせる塩

氷のうや氷枕は、今でも熱冷ましに欠かせませんが、深夜など氷を取り替えるのが大変です。そんなとき、塩をひとつかみ中に入れておくと、氷が長もちして、取り替える間隔を伸ばせます。



❗ 酢は臭い消しの万能選手

酢はいろいろな場面の臭い消しに役立ちます。たとえば手に生ものの臭いがついてしまった時には、酢で手を洗うと臭いが取れます。シンクの三角コーナーにたまったゴミの臭いが気になるときも、酢をふりかけると効果的です。

\*昔から、「おばあちゃんの知恵」といわれているものは、長年の経験に基づいた先人たちの知恵の凝縮です。わたしたちも入居者の皆様から、たくさんの「へえ〜っ、そうなんだ!?!知らなかった〜!昔の人はすごいなあ〜」と、実感できるアイデアを日々、教わっています。

(参考文献:宝島社 おばあちゃんの知恵袋 決定版 生活のコツ700 編集/佐藤倫子)

編集後記

寒さも一段と厳しくなってきましたが、体調を崩されていませんか? 風邪などの感染症を予防するためにも、外出先から戻ったら「手洗い・うがい」を徹底し、体調管理に気を付けていきましょう。

グループホーム こんぴら・サンライズ こんぴら 広報誌「こんぴらだより」第43号

発行元: グループホーム こんぴら・サンライズ こんぴら

編集者: こんぴらだより発行部

住所: 〒766-0002 仲多度郡琴平町167

TEL: 0877-73-0811 FAX: 0877-73-0812

ホームページ <http://www.eisei-hp.or.jp/> (永生病院のホームページよりお進みください)

eメールでのお問い合わせは [keiryokai@eisei-hp.or.jp](mailto:keiryokai@eisei-hp.or.jp)

発行年月日: 平成29年1月5日



支援医療機関 介護保険事業所



永生病院

〒769-0311  
仲多度郡まんのう町買田221-3  
Tel 0877-73-3300



森内科 (グループホーム こんぴら 建物の1階)

〒766-0002 仲多度郡琴平町167  
Tel 0877-73-4188

グループホーム こんぴら

Tel 0877-73-0811



サンライズ こんぴら

(小規模多機能型居宅介護)  
〒766-0004  
仲多度郡琴平町榎井字池田451番地1  
Tel 0877-58-8600

- いこいの郷 (居宅介護支援事業所) Tel 0877-73-3655
- いこいの家 (通所介護) Tel 0877-73-3718
- げんきの郷 (通所介護) 〒769-0311 仲多度郡まんのう町買田102-1 Tel 0877-58-8811



# 謹賀新年

## 認知症サポーター養成講座

平成28年は多方面で予想外のことがおきた年でした。地震の危険地域では全くなかった熊本に大地震がおき、頑丈な熊本城が崩壊寸前の状態となり、続いて鳥取、福島にも地震がまた発生するなど、日本中が震撼となりました。8年ぶりの米大統領選では、過激な発言を繰り返し、誰もがまさかと思っていたトランプ氏が勝利しました。日本中で誰もがこの成り行きを注視しており、今後政治への関心が高まってくることになるのかもしれませんが、少しでも平和な方向へ進んで欲しいと思います。

ここ数年「老人性痴呆」という言葉はすっかりなくなり、「認知症」という疾患名で認識されるようになりました。「認知症」の疾患のなかにも、アルツハイマー型認知症をはじめ、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症などいくつか種類があり、現われてくる症状や経過などが異なります。

研究開発がすすみ、新しい抗認知症薬がでていますが、まだ完治することは困難です。適切なお薬を使用することにより、ある程度症状がコントロールされ、在宅や施設での穏やかな生活が可能となる方もいらっしゃいます。

高齢化社会になるにつれ、認知症の患者数は増え、身内や地域において軽症から重症の方まで触れ合う機会が多くなると考えられます。病気の発症を軽いうちから診断することも大切ですが、在宅生活を送る過程では、ともに生活する周囲の理解が重要となります。いろいろな場面でのどのように対応すればよいのか、困惑することになります。一般の方に認知症に対する理解を深めていただくため、「認知症サポーター養成講座」があります。グループホームこんぴら、サンライズこんぴらの職員はこの養成講座の講師となる資格を取得し、地域で認知症に対し正しく理解していただくために、行政の方と協力して、学校、銀行、自治会などで講演活動しています。病気の説明だけでなく、実際の場面を劇で実演しておみせし、ご質問をいただいたりしています。学校では、小学生から活発な意見や質問がでて、身近な課題として取り組んでいこうとする前向きな姿勢がみられ、とても頼もしい反響がみられます。地域で認知症をケアしていこうという意識が高まれば、軽症の方は、施設に入らずともできるだけ在宅での生活が可能となると思われま。今後も皆様のご意見をいただきながら、活動を続けてまいります。



理事長 森 伊津子

# グループホームこんぴら Group Home Konpira

## ●基本理念

家庭的温かさ・個人の尊厳を大切に、豊かな生きがいのある共同生活が送られるよう、家族の一員としての介護支援を行います

## ●基本方針

- 1.家庭的で安全な療養環境を提供します
- 2.24時間家族の一員がそばにいる安心感がもてるよう介護支援を行います
- 3.自分らしさを尊重した生活が送られるよう入居者の健康増進を図り個性のある介護支援を行います



## ～クリスマス会～

12月11日に、クリスマス会と地域運営推進会議を同時開催しました。入居者様・ご家族様・町役場や地域の方々も多数参加して頂きました。グループホームでは、栄養士2名と管理栄養士1名が栄養バランスを考えた献立をたてており、提供している食事や栄養について説明しました。又、ソフト食(お好み焼きなど、見た目は同じでも舌でつぶせるくらいの固さにしたもの)の試食も行いました。また、バイキング形式の食事やレクリエーションもとても盛り上がり、みな笑顔で楽しい時間を過ごす事ができました。

## 取り組み 外出支援

グループホームこんぴらでは、毎月ドライブ・散歩・外食といった外出支援を積極的に行っています。入居者様の思い出の場所へ出かけたり、好きな料理を食べに行ったりすることで入居者様の気分転換を図る良い機会となり、現在では入居者様の楽しみの一つとなっています。今後も色々な所へ出かけ、楽しい時間が提供できるよう支援していきたく思います。



# サンライズこんぴら Sunrise Konpira

## ●基本理念

住み慣れた地域の中で、その人らしく暮らし続けられるよう、在宅生活の支援を行います

## ●基本方針

- 1.通い泊まり・訪問のサービスを、随時組み合わせた介護支援を行います
- 2.地域の中での関係を大切に継続するとともに、個性を尊重した支援を行います
- 3.365日24時間切れ目のない安心した在宅生活が送れるような支援を目指します

## ～永生病院の文化祭に参加～

永生病院の文化祭が10月28日～11月10日に開催されました。サンライズからもブロック折り紙を使った白鳥と雪だるまを出展しました。利用者様は自分達の作品が展示されているのを見て、「私が作ったのがある。」「綺麗に飾られとるわ。」と、とても喜ばれていました。また、他の部署の作品を見て、「来年も作品を作りたい!」と意欲的な声が聞かれました。ひとりで作るのではなく、他の利用者様や職員で協力して作品を作る事が大切だと改めて感じました。文化祭後はサンライズの玄関に白鳥と雪だるまを飾っていますので、来所された際には是非ご覧になって下さい。



## ～保育所交流会～

11月28日に琴平町北保育所との交流会がありました。可愛い園児達の歌や踊りを見て利用者様の中には手をたたいて一緒にリズムをとったり、歌を口ずさんだりされる方もいらっしゃいました。また、園児達と一緒に松ぼっくりを使ったツリーを作りました。子供達が近くに来てくれると、「可愛いなあ」「何歳なん?」と園児に声をかけるなど、利用者様も嬉しそうな表情をされていました。保育所との交流会は年2回行っていますが、来年も地域の皆様と交流の機会を増やし、利用者様が満足していただけるよう行事を企画していきたく思います。

# 利口げな話

認知症や介護について、分かりやすく説明したいと思います。

## 第16回 認知症の人と接する時の心構え

認知症の人と接する時の心構えとして認知症の人は本人に自覚がないというのは大きな誤解です。認知症の症状に最初に気づくのは本人です。きっかけは、もの忘れによる失敗、家事や仕事がうまくいけなくなるといった事が多くなり、何となくおかしいと感じ始めます。また、認知症特有の「言われても思い出せないもの忘れ」が重くなると、本人が何かが起こっていると不安を感じはじめます。認知症の人は何もわからないのではありません。誰よりも一番心配なのも、苦しいのも本人です。また、認知症になった時、多くの人が「私は忘れてなんかいない」「病院に行く必要はない」と言われる事が多くあります。その理由は「私が認知症だなんて!!」とやり場のない怒り、悲しみや不安から自分の心を守る自衛反応といえます。「認知症という病気になった人」の本当の心を理解するのは容易ではありません。しかし、周囲の人や介護者が認知症の人の隠された悲しみの表現である事を知っておく事がとても大切な事です。本人の思いを理解し、気持ちに寄り添った対応を心がけましょう。

(参考文献:キャラバンメイト養成テキスト 執筆/斉藤 正彦 東京都立 松沢病院 院長)